

令和7年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)

大阪市立友渕小学校

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

- 友渕小学校は大阪市一の大規模校であり、4月1日現在の児童数は1420名である。大人数の子どもたちが安全に安心して学校生活を送ることができる環境を整備することは毎年考えていかなければならない。
- 令和3年度のいじめ認知件数は132件、解消率は78%であった。解消率をさらに高めるためにも一人ひとりが大切にされた学級集団づくりを進める必要がある。
- 学力調査の結果は例年全国平均を上回っている。しかしながら近年上位層や中間層と下位層との差が開いていく傾向にある。下位層の底上げが課題である。
- 児童質問紙による調査では、学力が比較的安定しているのに対し、例年自己肯定観は高くないことが課題として挙げられる。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定に回答する児童の割合を95%以上で維持する。→96.4%
- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。→84.4%
- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を84%以上にする。→87.6%
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。  
→2.32 (前年度2.00)

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を52%以上にする。→49.8%
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1.0ポイント向上させる。  
→4年算数、5年国語・算数は前年度より向上 (3年は今年度より実施のため、比較対象なし)
- ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。→93.3%
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。  
→75.1%

**【学びを支える教育環境の充実】**

- ・学習者用端末を活用した家庭学習を週3回実施する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を96.6%以上にする。→93.1%
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。→87.5%

**【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定に回答する児童の割合を95%以上で維持する。→96.4%
- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。→84.4%
- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を84%以上にする。→87.6%

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を52%以上にする。→49.8%
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。→75.1%

**【学びを支える教育環境の充実】**

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の56%以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等のICT活用が適さない日数を除く〕  
→81.8%
- ・学習者用端末を活用した学習を行った上で、学習者用端末を活用した家庭学習を1年生は2学期より、2～6年生は5月より週2回以上実施し、学級担任に向けた校内アンケートにおける「学習者用端末を活用した家庭学習を週2回以上実施できていますか」の項目について、肯定的に答える割合を70%以上にする。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を96.6%以上にする。→93.1%
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。→87.5%

## 大阪市立友渕小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95.5%以上にする。 →96.4% (令和6年度 95%)</li> <li>小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 →84.4% (令和6年度 78.9%)</li> <li>小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合の84%以上にする。 →87.6% (令和6年度 83%)</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○自分や友だちを大切にしたり、仲間と助け合ったりする活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の決まりやルールを守ること、自分や友だちが安全に過ごすことができることを、年間を通して各学級・学年で指導できるようにする。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回以上、「いじめ」と向き合う時間を設け、自分や友だちを大切にしたり、仲間と助け合ったりする活動を行う。</li> <li>また、学校の決まりやルールを守っているかどうか振り返る時間を学期末に1回以上設ける。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○道徳科の授業に限らず、あらゆる教育活動を通して、自己肯定感を高められるよう指導する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、学期に1回以上は自己肯定感を高められる教材を選定・活用したり、学習活動を工夫したりして指導する。</li> </ul>	<b>A</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学期に1回以上、全ての学年・学級であらゆる教育活動・教科において「いじめ」と向き合う時間を設けたり、友だちと協力して活動する場面を設けたりできた。そうすることで、自分や友だちを大切にしたり、仲間と助け合ったりしようとする心情を育てることができた。</p> <p>また学期に1回以上学校の決まりやルールを守っているかどうか振り返る時間を朝会や各学級での朝の会、月末や学期末に設定するなど、全ての学年・学級で設けることができた。その結果、校内調査「学校のきまりやルールを守って安全に過ごすことができますか」</p>	

の項目に、肯定的に回答する児童の割合 95.5%を維持できた。(今年度2学期末95%  
3学期96%)

**取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】**

いろいろな教科の中での活動や振り返り、朝の会や帰りの会、縦割り班活動、学級での独自の取り組みなど、あらゆる教育活動を通して、各学年・学級で学期に1回以上は教材を選定・活用したり、自分のいいところや友だちのいいところなどを見つけて伝え合ったりするなどの自己肯定感を高められるような指導をすることができた。

その指導により、校内調査の「自分には良いところがあると思いますか」の項目に、肯定的に回答する児童の割合が昨年度と同じ水準で維持することができた。(今年度2学期末83% 3学期末86%)

次年度への改善点

**取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】**

実際には、指導者と児童との感覚には多少のずれがあり、児童同士の関わり方、学校のルールを守れていない児童、登下校中・放課後の過ごし方などで注意が必要な場面も多かった。したがって引き続き指導していく必要がある。

**取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】**

ここ数年、積極的に各学年・学級、様々な学習活動において自己肯定感を高める活動に取り組み成果を収めることができた。来年度は校内調査の「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合の数値を83%以上維持することに上方修正する。

## 大阪市立友渕小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を52%以上にする。 →49.8% (令和6年度 51%)</li> <li>・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。 →75.1% (令和6年度 74%)</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○年間を通してすべての教科・領域の授業において深い学びを重視した「自分ごとの学び」の授業への転換を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を見通し自ら課題解決に向けて取り組もうとするための授業展開を工夫する。</li> <li>・深い学びに向けて学び合う学習活動を工夫する。</li> <li>・学習成果をふり返り、次の学習に生かすための工夫を図る。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校アンケートにおける「授業で学習した後に、もっと知りたいことや、生活の中で活用できることを思い浮かべることがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</li> <li>・同一母集団における小学校学力経年調査において、平均正答率の大阪市標準化得点を、いずれの学年や教科においても103を目標にし、どの学級も100以上を維持する。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○自分の体と向き合い、健康的な体づくりへの意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力にあった体の使い方を楽しく身に着けるような工夫をする。 (小さな変化(達成・成長)がわかる目標を設定するなど)</li> <li>・「保健だより」「給食だより」「健康生活振り返り週間」や保健指導などを通して、健康に対する興味・関心をもたせ、食事・運動・睡眠の大切さについて理解し、自身の生活に取り入れようとする態度を養う。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の時間の毎5分間を利用して、習慣的にストレッチや体をほぐす運動を行う。また、運動場の固定遊具やなわとび運動などの方法を提示する。</li> <li>・月1回発行の「保健だより」「給食だより」を各学級で活用(読みあげ・掲示)し、健康的な生活や食生活についての意識を高めたり、「健康生活振り返り週間」を行い健康的な生活を送ることができているか振り返ったりする。また、それらの取り組みを通じて家庭との連携や啓発を図る。</li> </ul>	

**取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

- ・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を52%以上にするに対して、同じ項目の学校アンケート（最終）では、昨年度を1%上回って52%となった。

(学年別：1年…49%、2年…45%、3年…55%、  
4年…54%、5年…58%、6年…52%)

- ・本年度の指標の学校アンケートにおいては、「授業で学習した後に、もっと知りたいことや、生活の中で活用できることを思い浮かべることはありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は83%であり、目標としていた75%を大きく上回っている。

(学年別：1年…84%、2年…82%、3年…87%、  
4年…87%、5年…84%、6年…76%)

- ・教員アンケートにおいては、「学習を見通し、自らの課題解決に向けて取り組もうとするための授業展開の工夫」を肯定的に回答する教員は95%と高い結果となっている。しかし、その一方で、発達段階や教科によっては難しいと感じている教員も見られる。今後も、現状を踏まえて児童の発達段階に応じて「自分ごとの学び」となるようにアシストしていく必要がある。

**取組内容②【基本的な方向5 健康や体力を保持増進する力の育成】**

- ・校内アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は72%となり、昨年度より2ポイント下がり、目標である75%を下回る結果となった。

(学年別：1年…72%、2年…75%、3年…79%、  
4年…74%、5年…69%、6年…65%)

- ・教員アンケートでは、「児童の個性差や能力にあった体の使い方を楽しく身に付けさせるために工夫する」ことに肯定的に回答する教員は98%と高い結果となっている。一方で、授業内で児童に適切な指導や声掛けができていないか不安を感じている教員もみられるため、教員間での指導内容の共有や研修等、今後も行っていく必要がある。

次年度への改善点

**取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

だれ一人取り残さない学力の向上に向けて、本年度から本校の研究を軸とした取組内容を設定した。教員アンケートにおいては、問いの見出しや学習計画を立てる場面設定が、児童の意欲やその後学びにつながるという意見が見られた。また、「学習を見通し自ら課題解決に向けて取り組もうとするための授業展開の工夫」においては、昨年度より具体的で肯定的な意見が多い中でも、教科や発達段階において難しいと感じている意見も見られている。「自分ごとの学び」の転換を図るために、意見交流の場や研究とタイアップなど、授業展開や学習活動を工夫していくことが大切である。

また、本年度新たに設けた指標については、目標にする数値を、本年度の最終結果を踏まえて設定し直す必要がある。（肯定的に回答する児童の割合をどの学年も80%以上にする。）

**取組内容②【基本的な方向5 健康や体力を保持増進する力の育成】**

目標の指標となる「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答を見た場合、各学年の数値は高い傾向にある。

（全体…90%、1年…90%、2年…93%、3年94%、

4年…92%、5年…89%、6年…87%）

今後は肯定的な回答をすべて含んだ数値を向上させることにシフトし、児童全体の力の育成に取り組んでいく。（学年全体の肯定的な回答をどの学年も90%以上にする）

## 大阪市立友渕小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の56%以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等のICT活用が適さない日数を除く〕 →81.8% (令和6年度 55.9%)</li> <li>第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を96.6%以上にする。 →93.1% (令和6年度 96.5%)</li> <li>小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 →87.5% (令和6年度 79%)</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者用端末の活用により、児童の実態把握や学習内容の習熟を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールライフノート「心の天気」の入力</li> <li>・児童によるデジタルドリル「ナビマ」の実施</li> </ul> </li> <li>○児童の情報活用能力育成に向けた取り組みを進める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標一覧の作成、達成に向けた学習者用端末を用いた取り組み</li> <li>・大阪市ICTチェックリストを基にした校内アンケートにより、児童の情報活用能力について実態を把握する</li> </ul> </li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業日において、児童の8割以上が学習端末を活用した日数が、年間授業日の56%以上になるようにする。〔ただし、事務局が定める学校行事等のICT活用が適さない日数を除く〕</li> <li>・年に2度の校内アンケートを実施する。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会活動やクラウドを活用し、校内全体で本に親しむ活動を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員会による活動</li> <li>・高学年を中心に、読書に意欲が持てる活動</li> </ul> </li> <li>○校内での本に親しむ環境を整備する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・週に一度の読書タイム</li> <li>・学級貸し出し</li> <li>・司書と連携し、本の読み聞かせ等を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<b>A</b>

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的な回答を80%以上とする。</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向8 働き方改革推進プラン】</p> <p>○校内でクラウドアプリを活用した校務を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を非同期的に共同作成・編集することで会議時間を削減する。</li> <li>・校務における情報の収集・分析にICT活用を進める。</li> <li>・授業に使用する教材を整理し、授業準備の時間を削減できるようにする。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標</p> <p>第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合が90%以上であり、かつ校内アンケートにおいて、「ICTを活用して、校務を効率的にすすめることができる」の項目に肯定的に回答する教員の割合を80%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</b></p> <p>学習者用端末の更新と重なり、12月は47.1%であったが、年間を通しての達成率は81.8%であり、指標である5割は達成されている。</p> <p>また校内アンケートにおける「児童の情報活用能力育成に向けて、学習者用端末活用した取り組みができていますか。」については、92%の教員が肯定的に回答することや、「児童生徒が自ら自分の考えをまとめ、表現する活動(PowerPoint やスライド)を指導することができますか」の項目について肯定的に回答している教員が増加していること、児童に実施したアンケートの結果、ほぼ全ての項目で肯定的に回答が増加していることから、学習者用端末の活用や情報活用能力の育成は進んでいると考えられる。これは各学年内で実践の共有や見当が進んでいること、さらに年間で行われている研修会の実施により意識の向上が進んでいることが要因であると考えられる。</p> <p>しかしながら、「機会や時間がない」「教員が指導に必要なスキルがまだ身につけていない」といった意見もある。</p> <p><b>取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】</b></p> <p>「週に一回の読書タイムを実施できていますか。」や「図書の学級貸し出しを行うことで、児童が校内での本に親しむ機会を増やすことにつながっていますか。」について、肯定的に回答する教員が95%であることから、朝の読書タイム、学級での貸し出しは概ね実施できたと考える。さらに、お話会の開催、委員会活動(本紹介・読書月間)などを実施することができた。</p> <p>令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目に対して指標は「肯定的な回答する児童の割合を80%以上にする。」としており、児童の回答では、3年生81.7%、4年生88.3%、5年生75.6%、6年生78.8%となった。低学年の児童は質問に対して肯定的に回答する割合が高いが、高学年は低くなった。高学年では図書の授業回数や授業時間が少ないこともあり十分に図書に関われず、読書への興味が薄れてきていると考える。また、図書室の蔵書数、並行読書のための教科書関連の蔵書が少ないことがあげられるので、次年度以降、蔵書点検や購入図書(種類・冊数)も進めていきたい。</p> <p><b>取組内容③【基本的な方向性8 働き方推進プラン】</b></p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合は1月現在93%であることや、「ICTを活用して、校務を効率的に進めることができますか。」についての肯定的回答が93.1%であったことから指標は達成</p>	

されている。しかしながら昨年度と比較して肯定的に回答している割合は低下しており、働き方改革について改善が必要である。教員へのアンケートによると、「見るところがたくさんあって、どこにどの情報があるか分からないことが多い。」ことや「十分な知識とスキルが身につけていない」ことが課題として挙げられている。

#### 次年度への改善点

##### 取組内容①【基本的な方向 6 教育DXの推進】

- ・ 今後も児童の情報活用能力育成を進めていく必要があり、校内で内容を検討していく。
- ・ 課題となっている教員について到達目標を作成し、取り組みや研修を計画的に行っていくことで、教員のスキルアップや授業における情報活用能力育成やICTの活用についてイメージを持つことができるようにする。

##### 取組内容②【基本的な方向 8 生涯学習の支援】

- ・ 図書学習に関する図書購入(並行読書用)を多く行う。  
(各学年の図書担当と司書教諭と相談し定期的な購入をする。)
- ・ 図書委員会の取り組み(児童集会での本紹介)を1学期など早めに行い、全校児童の図書への興味・関心を広げる。
- ・ 委員会活動(読書月間)は児童が本への親しみを持てるように毎年開催する。
- ・ 朝の読書タイムや都島お話サークルによるお話会は引き続き実施していく。

##### 取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】

- ・ 校務におけるICT活用のイメージの共有や活用に向けた整備を進める  
今後のICT環境を踏まえた活用の提案  
データや格納フォルダの整理(ロイロノート、Google Drive、Teams)
- ・ 会議の時間や内容の精選、検討  
教材や校務データの整理、場所の周知と徹底
- ・ DX課による研修会の企画と内容の周知